

心の絆

戦地からの手紙

昭和17年6月21日、公文延寿さんはフィリピンの陸軍病院で亡くなりました。33歳の若さでした。妻の栄女さんは26歳、2人の息子は5歳と3歳。残してきた家族への募る思いは、遠い異国の地から手紙に託されて届きました。終戦から69年。私たちは両親や祖父母が経験した悲惨な過去を繰り返してはなりません。戦争により引き裂かれ、遺族となった悲しみを、公文栄女さんに伺いました。



公文延寿さん



延寿さんからの手紙

最愛の人との別れ

私は昭和11年に、20歳で結婚しました。夫の延寿は27歳。頭が良く、とても世話好きな人でした。結婚して1年後に長男の寛伸が生まれ、その2年後に次男の勲が生まれました。2人の子宝に恵まれた。優しい夫と、とても穏やかな日々を過ごしました。しかし、幸せな時間は長く続きませんでした。いかに優しい夫でも、召集の令状が出れば兵隊として出兵しなければなりません。子どものことをとてもかわいがっていましたが、別れのときは断腸の思いだったと思います。戦地に発つ日には地元の方で、親類や隣近所が集まって必勝祈願が行われました。しかし夫は私に「別れが余計つらくなるから来るな」と言いました。

私はとうとう出立を見送ることなく、家で2人の子どもの守りをしながら、夫が無事に帰ってくることを祈っていました。我が家の庭にはグイ実の木が植えてありました。家を出るとき、夫はそれを見て、「子どもが食べて腹を壊すといかん」と言いました。そして、日本刀を一刀振るって切り捨てていきました。

手紙

夫は字が上手な人で、よく戦地から手紙を送ってくれました。子どもたちの成長の様子を尋ねたり、自らの近況を報告したり、私や義母のことを気遣う手紙です。「ご無沙汰しています。皆お変わりありませんか。寛伸、勲はどうだ。手不足で随分忙しいことと思う。もう内地も少しは暖かくなっ

ただろう。近所、親類等には変化はありはせぬか...

私は夫の帰りを待つ間、2人の子どもを守らなければならぬと気を張りながらも、耐え切れず畑へ行っ

支えとなったのは、夫の母と祖母の存在です。そして男手のない私たちを、親類や近所の方が助けてくれました。働いて働いて、働き通しました。つらい戦争の時代でも、助け合いながら生き抜いてきたのです。

子どもの写真

夫への手紙に子どもたち2人の写真を添えて送りました。元気に育っていること、こんなに大きくなったと見せたかったからです。田んぼの水の世話をしている途中、役場の人が駆け寄ってきて言いました。「延寿は亡くなったぞ」

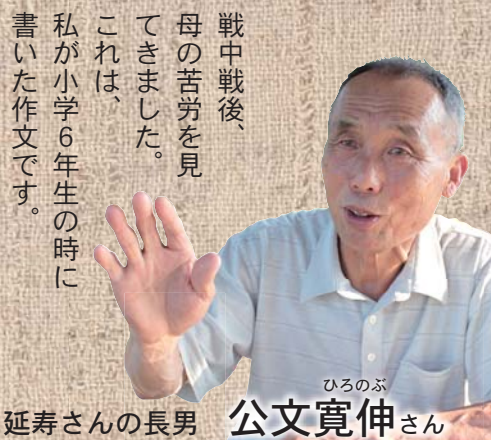


公文栄女さん (97歳) 物部町庄谷相

目の前が真っ暗になり泣きながら家に帰りました。夫が愛した子どもたちの写真は、夫が死んだ3日後、戦地の陸軍病院に届いたそうです。戦争はつらく悲しいものです。二度と、絶対にしてはいけません。

取材を終えて

延寿さんを亡くされてから、毎日田畑へ出かけ、土と汗にまみれて一生懸命に働いたという栄女さん。夫におうかとも考えたそうです。が、幼い子を前に思いとどまり、家族や周りの人たちに支えられながら生きてきたと、目に涙を浮かべながら話してくれました。「戦死した人も残された人も皆を不幸にする戦争。二度と起こしてはいけな」と、祈るように語った姿が印象的でした。いまこそ不戦への誓いを新たにしたいと思います。



延寿さんの長男 公文寛伸さん

父

僕のおとうさんは昭和十七年にフィリピンでマラリアといふ病気でなくなりました。その時僕は五才であった。はや、おとうさんがなくなつてから、八年の月日がたつたのであるが、おとうさんがいた時と同じようなくらしかたをしている。母が牛のこえをだしている時、いねをおとしている時、ありとあらゆることをしている時、ああ、おとうさんがいたら、母はこんな苦勞はしなくていいのに。おとうさん、帰ってきてくれ。おとうさんがいたら、母はしあわせだ。おとうさんがいたら、農作物は今の倍とれるのだ。おとうさんは作文がうまかったと母がいった。僕も作文が、おとうさんよりもつともつとうまくなるつもりである。そして、りつばな百姓になる。おとうさんよりもつともつとはたらくのだ。おとうさん、おとうさんのすきな犬をかつている。六年になって田もすいてみた。いねもかつてみた。僕としては、母をすこしでもらくにしようとしている。僕は決心している。それはただ一つなのだ。大きくなつて、人からもほめられるような農夫になる。おとうさんはこの世の人ではないけれども、どこかにいるようである。

※原文のまま

香美市の平和活動

非核・平和宣言都市

香美市は、核兵器の廃絶と平和を願う全ての人々と相携えて行動することを決意し、平成18年5月25日、『非核・平和都市』宣言を行い、『日本非核宣言自治体協議会』に加入しました。

平和市長会議への加盟

香美市は、平成22年1月1日に『核兵器廃絶に向けての都市連帯推進計画』に賛同する世界各国の都市で構成されている平和市長会議に加盟しています。

香美市戦没者追悼式

香美市では、毎年、戦没者の追悼式を行っています。今年も5月30日に、中央公民館で行われ、遺族ら約130人が参列しました。式では戦没者に黙とうをささげ、参列者が献花を行いました。遺族らはめい福を祈るとともに、平和への願いをこめて、祭壇に向かって手を合わせていました。



ヒロシマ・ナガサキ被爆ポスター展

8月1日～27日まで、市役所1階ロビー・香北支所・物部支所で『ヒロシマ・ナガサキ被爆の実相等に関するポスター展』を開催します。

黙とうをささげましょう

- 広島市原爆投下時刻 8月6日午前8時15分
長崎市原爆投下時刻 8月9日午前11時2分
終戦記念日 8月15日正午

▼保管物件の返還について...税関では、終戦時に外地から引き揚げてこられた方からお預かりした通貨・証券等をお返ししています。お問い合わせ先】高知税関支署 0888・832・6131